

天川村づくり助成金事業
申請報告書

「天川道具講」展と天川村における取組みについて

2015年2月
locpump

目次

- 1. はじめに
- 1-1. 「天川道具講」について
- 1-2. 展覧会情報
- 2. 展示品とイベント
- 2-1. 展示品の紹介
- 2-2. 民家「ヒユラノラ」の紹介
- 2-3. イベントの紹介
- 3. これからの取組みについて

1. はじめに

1-1. 「天川道具講」について

「人は道具をつくり、道具を使い、自然の中でさまざまな道具とともに生活を営んできました。『天川道具講』では、天川村の生活の営みと道具との関わりをきっかけに、新たな道具の現代的意味を再考します。建築、民家、インフラ、家具、雑貨、楽器、そして暦など、これらを一旦道具として見つめ直すことで、道具、人、自然のなかに息づく多彩なネットワークを再発見できるのではないのでしょうか。」

上記のような考えのもと、2014年8月から9月にかけて「天川道具講」展を開催した。天川村、および天川村の村外から、共に複数の協力者を得て、さまざまな道具を提供していただいた。またそれらをきっかけとして新たな作品（道具）を制作し、展覧会場には、既存の道具、新しい作品を一同に展示した。

1-2. 展覧会の内容

天川村資料館ギャラリーほのぼのにおけるでは、道具・作品・パネルの展示のほか、レクチャー・シンポジウムやワークショップをおこなった。道具のなかに息づくネットワークから、新たな道具を生み出し、展示した。

坂岡悌氏の所有する空家を、人の集まれる「寄り場」として再生した。そこでは2度のワークショップをおこなった。民家内部に石垣を表すことで、天川村独特の斜面集落の暮らし、形状を視覚化した。

そのほかに、塩野集落でのフィールドワーク、森田久勝氏の農家での炭焼き窯づくり、をおこなった。

1-3. 展覧会情報

場所：天川村立資料館ギャラリーほのぼの

日時：8月1日(金)~9月27日(土) 午前10時~午後5時

主催：locpump(幸家大郎/船橋耕太郎)

協力：阪岡悌(天川村) 大阪市立大学大学院建築計画研究室

2. 展示品とイベント

2-1. 展示品の紹介

「天川道具講」展において展示した作品は下記の通りである。天川村、天川村外から複数の作品提供者（あるいは道具提供者）に参加していただくことができた。そのなかで、天川村の方々と作家の交流・ネットワークが生まれ、今後、一層良好な関係の展開が期待できる。

作品タイトル	制作者	道具	道具提供者	主旨
ヒュラノラ	locpump 大阪市立大学 大学院	障子	阪岡悌 (天川)	南日裏の空き家民家を、人の集まれる寄り場として再生しました。展覧会期間中はワークショップ等を企画しています。
マスクインウォーキン	locpump 大阪市立大学 大学院	障子	阪岡悌 (天川)	塩野集落のフィールドワーク記録。写真を赤でマスクングし、斜面集落の特徴を視覚化しました。ウォーキングが一層楽しくなるかもしれません。
もりたのたも	森田久勝 (天川)	たも	森田久勝 (天川)	山から探し出した二股の枝から制作した、たもの骨組み。網を取り付ければ、漁に最適なものの完成です。
もりたのほうき	森田久勝 (天川)	ほうき	森田久勝 (天川)	とうきびを束ねて制作したほうき。数本を重ねてずらしながら束ねることで、掃きやすい形状と、長持ちする強度を追求しています。
もりたのちりとり	森田久勝 (天川)	ちりとり	森田久勝 (天川)	一斗缶を半分に割り、角を補強して制作したちりとり。通常のちりとりよりも強く、長持ちします。
もりたのこしかご	森田久勝 (天川)	こしかご	森田久勝 (天川)	人造しぼり丸太制作のためのプラスチック片を通称「ナミシボ」といいます。木に取り付ける際、腰から下げるカゴを「こしかご」といい、そこに目一杯にナミシボを入れてみると・・・。
もりたのとんぼ	森田久勝 (天川)	とんぼ	森田久勝 (天川)	ナミシボは、木を頂部から降りながら取り付けます。とんぼに足をかけて降りてきます。
缶のひらき	locpump	一斗缶	森田久勝 (天川)	一斗缶のちりとりも割り方、開き方でいろいろな形に変化します。ちりとりとは違う、別の何かに使えるかもしれません。
丸太しぼり	locpump	ナミシボ とうきび	阪岡悌 (天川) 森田久勝 (天川)	山に生えている木にぐるぐるとナミシボを巻き付けて、人工的にしぼり加工を施します。とうきびも一緒に束ねてみましょう。
ひらいてむすんで	locpump	打飼袋	森田久勝 (天川)	打飼袋（うちかいぶくる）とは、長方形の布を斜めに縫製し、袋にした道具。折り方によっては袋にならないこともありそうです。
宙ぶらりん	locpump	—	—	天川村には、はさ掛けが多く見られます。ここでもいろいろな物を干したり吊るしたりしてみましょう。
サイクル	locpump		天川村役場	天川村には毎年大勢のキャンプ客が訪れます。美しい自然を満喫できる一方で、ゴミの放置問題が深刻になっています。
農具遊び	locpump としだゆい (zakka 温)	耕耘機のブレード ナミシボ・ デシボ	五島農園 阪岡悌 (天川)	農作業に使われていた道具の部品たち。役目を果たした後でも、こうして色々な表情が楽しめます。
まがるがまま	locpump としだゆい (zakka 温)	割り箸炭 ナミシボ	NPO木づかい倶楽部 阪岡悌 (天川)	割り箸の炭は、成型前の状態に戻ろうとしているのでしょうか。ナミシボに熱を加えると、まるでコゴミのようにくるくるとまります。三角形の断面に秘密があるのでしょうか。

こごみちゃん	locpump としだゆい (zakka 温)	ナミシボ	阪岡悌 (天川)	くるくると渦をまく様はコゴミを連想させます。お守り雑貨としての利用も可。
やまとろ	西村徳一 (天川)	ヨギリの木 っ端	西村徳一	ヨギリとは、木材伐採時にチェーンソーによってカットされる、くさび形の余剰部分（山に捨てられる）です。やまとろは樹齢300年相当のヨギリを利用した、什器です。まさに山のトロのようです。
ショッカーズブ ース	幸家大郎	ビニルハウ ス部材		農作業のハウス部材を使ってブースを制作。ショッカーのように伸びた触手には、弦を張りました。
ナビシボ	中川浩佑 (中川弦楽器 製作所)	ナミシボ	阪岡悌 (天川)	竹ヒゴに取り付けたナミシボが風になびくと、カラカラカラと音を立ててにぎわいます。
ショッカク	中川浩佑 (中川弦楽器 製作所)	—	—	ショッカーズブースに取り付けられた弦は、風に吹かれて微量の音色を奏でます。
ロケットストー ブ	幸家大郎 (幸家大郎建 築研究所)	—	—	ロケットストーブは、断熱された煙突効果により、少量の燃料でより多くの熱エネルギーを得られる道具です。
ロケットストー ブ	森田久勝 (天川)	—	—	農家でとれたお茶を煎るために、ロケットストーブを改良し制作しました。
金火鉢火巫女	松村賢治 (松村建築研 究所)	—	—	熱源の周囲に空気層（断熱層）を設けることで、火の起こりと火持ちの性能を向上させています。ステンレス製で耐久性は抜群です。
ポピュラー火巫 女	松村賢治 (松村建築研 究所)	—	—	「金火鉢火巫女」の簡易版。ホームセンターで購入可能な材料を使用することによって、制作が容易になりました。展覧会期間中に制作WSを行います。
ドラム缶炭焼き 窯 (松村式)	松村賢治 (松村建築研 究所)	—	—	ドラム缶を使った炭焼き窯です。展覧会期間中に窯制作・火入れ・炭制作を行います。
採蜜遠心分離機	阪口正 (天川)	採蜜遠心分 離機	阪口正 (天川)	巣箱から引き上げた蜂の巣を、この遠心分離機にかけることによって、蜜を採取します。
ミツロウワーク	山本美紀子	蜜蝋	阪口正 (天川)	天川で作られた蜂の巣から、わずかに採れる蜜蝋。その蜜蝋を使って、クレヨン・ロウソク・ハンドクリーム・木用ワックスを制作しました。
バチレフ	locpump	蜂の巣箱	阪口正 (天川)	蜂の巣箱をバスレフに転用しました。本来蜂の放射熱を排気する口は、共鳴管として音を放出します。蓋をあければ高音、閉めれば低音を響かせます。箱の中に色々なフレームをしこめば、ピピッとハウリングが楽しめます。



展覧会風景（天川村立資料館ギャラリーほのぼの）



展覧会風景（天川村立資料館ギャラリーほのぼの）

2-2. 民家「ヒユラノラ」の紹介

坂岡悌氏の所有する空家を減築、改築し、人の集まれる「寄り場」をつくった。斜面集落における石垣と斜面の関係を視覚化した。また、土間・おくどさんを復活させ、昔からある暮らしを再現した。

また、2度のワークショップ（食のワークショップ、演奏のワークショップ）を行い、天川村内外より多数参加いただいた。ギャラリーほのぼのには「ヒユラノラ」のパネル展示をおこなった。



ヒユラノラ外観



ヒュラノラ内観



ヒュラノラ内観

2-3. イベントの紹介

8月から9月末にかけての展覧会期間中、「天川道具講」では、道具にまつわるイベントを企画した。内容は下記の通りである。天川村外からの方々にも多数参加していただき、天川村の方との交流が盛んになった。

天川道具講 Event Schedule				
8/1	金	10:00-	天川道具講 開催	
8/2	土	17:00-21:00	天川道具講 Opening Party 『七夕の寄り』	@ヒュラノラ (南日裏)
8/23	土	15:00-18:00	道具講 Workshop 『へっついさんクッキング』	講師：森田久勝 (天川村) @ヒュラノラ (南日裏)
8/24	日	10:00-12:00	道具講レクチャー&シンポジウム 『日読む (カヨム) 暮らし』	講師：松村賢治 ゲスト：阪口正 阪岡悌 司会：locpump @ギャラリーほのぼの (洞川)
8/24	日	13:00-16:00	道具講 Workshop 『Mobi-炉 DIY』	講師：locpump @ギャラリーほのぼの (洞川)
9/6	土	14:00-16:00	道具講 Workshop 『ドラム缶炭窯ワークショップ』制作	講師：松村賢治 @森田さんの畑
9/7	日	10:00-12:00	道具講 Workshop 『ドラム缶炭窯ワークショップ』火入れ	講師：松村賢治 @森田さんの畑
9/7	日	14:00-16:00	道具講レクチャー&シンポジウム 『コミュニケーションを生む道具講 (考) 』	講師：松村賢治 太田博一 ゲスト：井頭東洋 阪岡悌 司会：locpump @ギャラリーほのぼの (洞川)
9/7	日	17:00-18:00	道具講 Workshop 『ドラム缶炭窯ワークショップ』窯出し	講師：松村賢治 @森田さんの畑
9/13	土	10:00-17:00	道具講 Fieldwork 『塩野あるき』	案内：locpump @塩野集落
9/14	日	13:00-17:00	道具講 Workshop 『みつばちクレヨン』	企画：locpump 山本美紀子 @ギャラリーほのぼの (洞川)
9/15	月	10:00-17:00	天川感電祭 - 山の佇まいを奏でる-	ゲスト：中西秀樹 中川浩佑 企画：locpump @ヒュラノラ (南日裏)
9/23	火	17:00-21:00	天川道具講 Closing Party 『天川夷り話』	@ヒュラノラ (南日裏)
9/27	土	-17:00	天川道具講 最終日	

1. 道具講 Workshop 『へっついさんクッキング』

日時：8月23日（土曜日）15：00～18：00

場所：ヒュラノラ（南日裏）

講師：森田久勝（天川村）

進行：locpump

民家展示スペースとして整備したヒュラノラ（阪岡氏提供）に、へっついさんと呼ばれる直火のかまどを復活させた。「へっついさんクッキング」は、天川村在住の自給農家 森田久勝さんを迎え、へっついさんを囲む暮らし、茶粥の作り方などを学び、季節の野菜を食すイベントである。そのなかで参加者の方々には、今では少なくなった天川村の昔ながらの文化・風景に触れていただくことができた。



『へっついさんクッキング』@ヒュラノラ

2. 道具講レクチャー&シンポジウム 『日読む（カヨム）暮らし』

日時：8月24日（日曜日）10：00～12：00

場所：天川村立資料館 ギャラリーほのぼの

講師：松村賢治

ゲスト：阪口正、阪岡悌（ともに天川村）

司会：locpump

月のバイオリズムを取り込んだ暦、いわゆる旧暦は、古来よりアジア圏において広く利用されている。旧暦は日本においても、近年まで、季節を読む生活上の道具として使われてきた。

『日読む（カヨム）暮らし』では、松村賢治氏（旧暦の研究者）より旧暦についてのレクチャーをしていただき、その後、天川村の方々とともに「旧暦と暮らし」についての意見交換をおこなった。

3. 道具講 Workshop 『Mobi-炉 DIY』

日時：8月24日（日曜日）13：00～16：00

場所：天川村立資料館 ギャラリーほのぼの

講師：松村賢治

進行：locpump

ホームセンターで揃う材料の組合わせでつくる携帯七輪「Mobi-炉」の制作ワークショップをおこなった。シンプルな構造にもかかわらず、炭の起こりや燃焼効率、火の持ちに優れている。アウトドアはもちろん室内利用も可能である。参加者の方々には、ワークショップで制作体験し、作品を持ち帰っていただいた。



『Mobi-炉 DIY』@ギャラリーほのぼの

4. 道具講 Workshop 『ドラム缶炭窯ワークショップ』

日時：9月6日（土曜日）14：00～16：00（炭窯制作）

9月7日（日曜日）10：00～12：00（火入）

9月7日（日曜日）17：00～18：00（窯出し）

場所：自給農家 森田久勝さんの畑

講師：松村賢治

炭には多様な用途があり、燃料としても備蓄が可能である。松村賢治氏の制作する、「改良ドラム缶炭窯」は、一般のホームセンターで市販されている材料で制作することができ、炭焼きに要する時間は一日と、性能面においても優れている。

今回のワークショップでは、参加者の方々には、炭窯の制作から炭焼きまで、一連の流れを体験していただいた。初日に炭窯の制作・設置作業、二日目に炭の火入れ・窯出しをおこなった。当日は雑木などを炭にして、持ち帰っていただいた。



『ドラム缶炭窯ワークショップ』@森田久勝さんの畑

5. 道具講レクチャー&シンポジウム 『コミュニケーションを生む道具講（考）』

日時：9月7日（日曜日）14：00～16：00

場所：ギャラリーほのぼの

講師：松村賢治 太田博一

ゲスト：井頭東洋 阪岡悌（ともに天川村）

司会：locpump

生活を営むために必要な水や熱源、いわゆるインフラは元来、生活の共同体（コミュニティ）の中でつくられ、確保・管理されてきた。つまりインフラは、人々のコミュニティをつなぐ道具でもあったといえる。今回、インフラをコミュニケーションを生む道具として捉え、下記のレクチャーをおこなった。

・松村賢治氏によるレクチャー

「炭づくりの現代的有用性 - コミュニケーションツールとしての炭焼き窯 -」

・太田博一氏によるレクチャー

「ニュータウンにおけるコミュニティの形成 - 千里ニュータウンのこれまでとこれから -」

レクチャーの後、参加者の方々とともに、「道具としてのインフラ」「都市（郊外）と農村の違い・交流」などのテーマをもとに、意見交換をおこなった。



『コミュニケーションを生む道具講（考）』@ギャラリーほのぼの

6. 道具講 Fieldwork 『塩野あるき』

日時：9月13日（土曜日）10：00～17：00

場所：塩野集落

案内：

進行：locpump

天川村の西地区にある塩野集落は、斜面に形成された集落である。ここでは、農作業や日常生活、家の立て方、地形利用など、斜面特有の知恵がさまざまな場所で窺うことができる。

『塩野あるき』では、塩野集落の方々の案内のもと、集落を歩き、生活の話を伺い、民俗資料を拝見した。参加者の方々はフィールドワークを終え、普段の都市における生活との違い、斜面生活の工夫など、特徴的な風景を、いろいろな気づきとして読むことができた。



『塩野あるき』@塩野集落

7. 道具講 Workshop 『みつばちクレヨン』

日時：9月14日（日曜日）13：00～16：00

場所：ギャラリーほのぼの

企画・進行：locpump 山本美紀子

天川村洞川地区にある阪口商店では、天川村をはじめとする奈良県域のハチミツが売られている。そのハチミツを生み出すミツバチたちの住処、蜂の巣から、蜜蝋とよばれる余剰の成分が採取できる。今回の「みつばちクレヨン」は、そのわずかで貴重な蜜蝋を、阪口商店より少し分けていただき、蜜蝋からクレヨンをつくるワークショップを行った。

ワークショップで作られた、天川産のみつばちクレヨンは、持ち帰っていただいた。



『ミツバチクレヨン』@ほのぼのギャラリー

8. 天川感電祭 『山の佇まいを奏でる』

日時：9月15日（月曜日）10：00～17：00

場所：ヒュラノラ（南日裏）

ゲスト：中西秀樹（弦楽器工房 SOL-ANEMO） 中川浩佑（中川弦楽器製作所）

企画：locpump

『天川感電祭』は、音楽にまつわる道具（楽器、電子機器、身体など）を組み合わせ、ミックスし、新たな音を奏でる（人間・自然・環境・電気信号とが交流する）試みである。天川村山間の斜面に佇む民家「ヒュラノラ」のランドスケープを用い、音をかなで、創作ライブを行った。トタン板、鍋、建具などまわりにある音の鳴るものを、参加者が集め、作り上げた（自然に見つけた）音源を素材として収録し、ループ音楽にのせてライブ・収録した。

天川村内外から、音楽好きな人たちが集まり、思いのままに奏でていた。



『天川感電祭』@ヒュラノラ

3. これからの取組みについて

「天川道具講」では2ヶ月という展覧会期間中に、計7回のワークショップ、2回のレクチャーシンポジウムを行った。そこでは、さまざまな道具を通して、天川村内の人と天川村外の人との交流が盛んに行われた。天川村の方々から教わる知恵や、逆に都市・他の地域の参加者から、天川村の方々へと伝えられる事など、交流の中で、いくつかのきっかけを提供できたと考えられる。

以上のワークショップ、レクチャーシンポジウムは、展覧会期間中に限らず、今後も定期的・継続的に開催することができる。それにより、今後一層の交流が生まれ、先へと拡大していくことであろう。

南日裏の民家「ヒユラノラ」は、空家を「寄り場」として設計したものであり、この場所はこれからも、村内外の人々が交流するための拠点の一つとして使用することを目的としている。

現在、塩野をはじめとする天川村西地区の空家問題が、取り組むべき課題として浮上している。「ヒユラノラ」の空家利用を、ひとつのプロトタイプとして捉え、西地区の空家利用のさまざまな可能性についても考えていきたい。